

株式会社「水農江」 代表取締役社長

村井英敏さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

丹後半島の北東部に位置し、国の保存地区にも選ばれた「伊根の舟屋」を有する伊根町。(株)「水農江」(みずのえ)は、その舟屋群から北へ約10km進んだ所、周りを山に囲まれた約70畝の農地が広がる本庄地区にある。「耕作放棄地をこれ以上増やさないためにも5人の仲間で法人を立ち上げ、農地を借り受けて効率的な農業経営や水稲の農作業受託を行う決心をした」と代表取締役社長の村井英敏さん(56)は話す。

同地区では水稲を主にソバや小豆などの生産が盛んに行われてきたが、担い手の高齢化や農機の維持・更新の負担増に加え、鳥獣被害の影響で耕作放棄地が増えてき

た。「このまま何もしなければ荒れた農地が増え続ける」と村井さんら同世代の農家5人で話し合い、2015年4月にJ A京都などの指導を受けて同社の設立に踏み切った。

法人格は、活動範囲を地区に制約されることなく、迅速で柔軟な経営判断ができるよう株式会社を選択して5人が株主となった。社名は、同地区が「水ノ江里(みずのえのさと)」と呼ばれていたこ

とから、「農」の文字を入れて地域に根差した会社として名付けた。

同社の経営は、農地中間管理事業を活用して農地19畝を受け入れ、水稲を中心にソバや野菜の生産に取り組み。2年目となる今年からは、同町で唯一の米の乾燥調製施設の運営をJ Aから引き継ぎ、新たに5台の乾燥機を導入して計6台で今秋から稼働させる。約15畝の稲刈りの農作業受託と併せて乾

燥・精米・J A出荷と一連の作業を効率的に行うことができ、地区外からも施設利用の期待が高まっている。

村井さんは、「今、同町に伝わる幻の小豆と称され、大粒で煮崩れしない『薦池(こもいけ)大納言』に注目している。当面は水稲を中心に経営していく考えだが、経営が見通せるようになれば薦池大納言の生産に取り組んでみたい。株主となった5人は会社の経営者の意識が高く、いろいろと意見を出し合って経営に取り組んでいる。会社を立ち上げて2年目。課題は多いが本庄の皆さんの信頼を得て、地域農業を支える存在になりたい」と語る。

■法人所在地 伊根町字本庄浜361番地、(電) 0772(333)0612。

■法人概要 2015年4月設立。株主5人のうち取締役3人、監査役1人。農繁期はパートタイマー4人。経営面積19畝(水稲17畝、ソバ1畝、野菜ほか1畝)、農作業受託(稲刈り)15畝。農機はコンバイン1台、米乾燥機(8石)6台、色彩選別機1台、もみすり機1台。

仲間5人で農地を守る



▶新たに導入した乾燥機を背にした村井社長